

令和 5 年度学校評価「総合評価」

本校は赤十字の基本理念「人道」を看護実践で具現化して活動する看護師を育成することを使命としており、運営方針を定めて学校運営を円滑に進めている。教育理念・教育目的・教育目標・科目は一貫性を持ち、教育方法に反映させた内容としている。

教育活動では、令和 4 年度より新カリキュラムを運用し、解剖生理・病態生理の理解、フィジカル・アセスメント、臨床判断力の強化についてオンライン教材による自己学習、シミュレーター等の看護モデルを活用し、模擬カルテを展開して実践的に学習を進めている。コミュニケーション力の強化として、模擬患者演習やチームコミュニケーションについて学び、臨地実習で実践できるよう工夫している。異文化コミュニケーション・グローバルヘルスの視点から医学英語検定に挑戦し、2 名が 4 級認定を取得している。また、地域・在宅看護論では、地域の生活を知る。地域の看護を知るという演習で実際に地域住民や看護職にインタビューして地域包括ケアシステムで将来必要とされる看護職の機能や役割について創造的に考えられる場を提供している。看護職として働く場のみでなく、職能団体やナースセンターなど法律に基づいて看護師を支援する場で働く人々にもインタビューし知見を深めることができた。そして、社会人基礎力の育成についても学生生活、実習において行動指標を習得できるよう意識的に取り入れている。

教員は担当領域における各学会等に参加したり、実践報告で報告したり、授業リフレクションを通して教育の質を向上できるよう努めている。しかし、教員ラダーの申請が 3 年間行われていない。中期ビジョンの中で自己の教育活動の評価方法として取り組んでいく。

学修成果として、看護師国家試験全員合格を継続している。また、卒業生全員が就職・進学している。ホームカミングデーには、9 割の新卒が参加したが、1 名が就職先を変更した。今年度は、県外の赤十字やその他の医療施設への就職希望もあり、令和 4 年度の卒業生の兵庫県看護職員内定着率が兵庫県の平均を下回ったため、支援事業補助金の交付対象外となっている。

学生支援として、スクールカウンセラーを導入し、年 2 回/人対応している。個別相談の依頼は 0 件であった。入学時に各種奨学金制度について説明し、手続きをしているが、経済的な理由で分割納入や猶予にも対応するケースにも対応している。今年度は、国際ソロプチミスト女子学生支援金に応募した一名が「リジョン夢を生きる賞」を受賞し経済的支援につながった。

教育環境として、平成 13 年に移転後、23 年を経て校舎の老朽化が進んでいる。医療 DX 促進事業として校内のトイレの自動水栓、ウォシュレットへの便座取り換えを実現している。災害用一斉メール配信サービスを使用し、能登半島地震の際も安否調査を行い、学生の安全確認に活用している。

学生募集と受け入れについては、赤十字看護教育の魅力を伝えて良質な学生の確保に努めている。高校の進路指導部長を訪問し、推薦入試について説明し、学校の状況も情報を得

ていくようにしている。高校が統廃合されていくため、オープンキャンパスに進路指導部の先生方を案内して学校を実際に体験できるよう案内していく。

法令等の遵守として、赤十字看護専門学校における学校評価ガイドラインに沿って、計画的に点検・評価をしている。評価結果は、運営会議や学校関係者評価会議で検討し、改善に取り組んでいる。学生の成績が低迷していること、わからないことが発信者に確認できないまま過ごし、理解に繋がらないこと、学習だけでなく、学校の方針や伝達事項が同様に理解に繋がらないことなどについて、方法を変えて取り組む必要があること、学校の理念や方針は必要な内容であるのでハラスメント等困難が多い時代ではあるが、信念をもって教員は教育活動を進めていくことなどが意見に挙げられた。これらの内容の要旨は、報告書にまとめて学校広報誌やホームページに掲載している。

社会貢献・地域貢献として、姫路市、日本赤十字社兵庫県支部や看護協会の依頼を受けて、講演や研修の講師や委員として活動している。今年度は、第49回フローレンスナイチンゲール記章を卒業生が受章し、授与式でキャンドルサービスを実施したその後の受章記念講演会を聴講し、国際性を含めて赤十字看護師としての学びを深める機会となっている。

最後に、設置医療施設や支部とは、毎年、運営会議などで将来構想について話し合っている。看護基礎教育体制の再構築に関して、学校運営会議で①赤十字のキャンパス化は財政確保が困難、②看護師確保の点から、当面、看護専門学校は存在の方針と決定している。